

### 中学生つどいの場 力を合わせ大凧製作



玉園中学校、船聖徳中学校、船岡中学校の生徒代表20人が協力し合い、5回の作業工程を経て2畳敷サイズの東近江大凧を製作しました。他校の生徒と交流を深めることで、互いを認め合うことの大切さを学ぶことを目的に、東近江市青少年育成市民会議八日市支部が主催したものです。



製作を通して絆を深めた生徒の皆さん

大凧の判じもんは、「いい仲間」と読み、今年の干支であるイノシシを2頭配置し、その間に仲という文字が書かれています。判じもんを考えた聖徳中学校2年の中澤悠来さんは、「2頭のイノシシの間に仲を配置することで『仲間』を表現しています。イノシシがハイタッチしているところがポイントです」と元気に話しました。大凧は、今後、近江鉄道八日市駅に展示される予定です。



### 市内で活動する大学生と まちの未来を語る

浜野会館（八日市松尾町）で「東近江市内で大学生が取り組むプロジェクト発表会」が私たちと語ろう、まちの未来」が開催され、大学生や市民の皆さんなど77人が参加しました。発表会には、龍谷大学、びわこ学院大学、滋賀県立大学、成安造形大学が行う5つのプロジェクトに関する大学生が参加し、取組や活動に対する思い、活動を通して抱いた東近

江市に対するイメージなどを発表しました。発表の後には、会場に集まった市民の皆さんと意見交換できる場も設けられ、大学生からの素直な意見が大変盛り上がりしました。

また、参加者の共感を最も集めたプロジェクトとして成安造形大学の「東近江市ブランドロゴの制作」が表彰されました。成安造形大学3年生の藤井彩水さんは、「このプロジェクトで作ったロゴマークなどを市民の皆さんに知ってもらいたい。さらに全国にも広め、市内の資源や活躍する人を多くの人に伝えたい」と今後の展望を話しました。



活動の内容や思いを語る大学生



表彰を受ける成安造形大学生



### 「こどもびな」がお出迎え 商家に伝わるひな人形めぐり

五個荘近江商人屋敷外村宇兵衛邸で、子どもが主役となる「こども雛絵巻まつり」が初めて開催され、市内の小学生が内裏びなや三人官女、五人ばやしにふんして、来館者をお迎えする出迎えました。これは、五個荘近江商人屋敷などで3月21日(祝)



まで開催している「商家に伝わるひな人形めぐり」のイベントの一つで、公募で集まった小学生が、きらびやかな衣装に身を包み、来場者に甘酒やひなあられを振る舞いました。内裏びな役で参加した五個荘小学校2年の小笠原はるかさんは、「少し恥ずかしかったけど、きれいな衣装を着られて楽しかった」と笑顔で話しました。

また、外村市郎さん（五個荘金堂町）から寄贈していただいた「御殿飾り」の贈呈式も行われました。外村さんは、「この季節にか飾ることはないが、大勢の人に商人屋敷に来てもらいたい、御殿飾りを見てもらいたい」と呼びかけました。

①かわいらしいこどもびなが並ぶ ②来場者に甘酒とひなあられを振る舞う三人官女役の小学生 ③五個荘近江商人屋敷などではさまざまなひな人形がお出迎え ④「御殿飾り」を寄贈していただいた外村さん(右)と小笠原市長



### 伝統のドケ踊り 押立神社で奉納

押立神社（北菩提寺町）で、五穀豊穡や平穩無事を祈る節分祭が行われ、「伝統の『ドケ踊り』」が奉納されました。ドケ踊りは、山から下りてきた神様を迎えたのが起源とされ、お渡りの行事として350年以上の歴史があり、明治時代

以降は60年に一度の「古式祭」で奉納されてきました。近年は、地域の文化を伝えるため、住民をつくる押立神社ドケ祭保存会の会員が、節分祭に合わせて毎年行っています。鬼や般若の面を着けた保存会の会員6人が、拝殿前に設置された特設舞台上で踊りを披露しました。

保存会会長の一守清さん（下一色町）は、「ドケ踊りには、人を結びつける魅力があります。地域や家族のつながりが希薄になるなか、大勢が参加して地域のつながりを深める機会にしたい」と今後を期待を寄せました。そのほか、還暦を迎えた年男らが舞台から福餅や福豆を参拝者にまきました。



①約200人の参拝者らがドケ踊りを見守る ②笛の音色にあわせ、色鮮やかなバチを振りながら「ドッケノ、ドッケノ、シッケノケ」と威勢の良い掛け声を境内に響かせる ③福餅や福豆まきもにぎわう